

まだ遅くない

葉月一郎
(題字も)



使者ふたり

もう二度と会うことはあるまい。

心の奥で、かき消したはずの白い頬が花束の向こう側にある。それは、まるで天国からの使者のように冷厳な表情を崩さずに立っている……。

戸波の中に、なにか噴き出すものがあつた。

松岡さえいなかつたら、飛び起き、走り寄つて、室内へ導いただろ。そんな想いを辛くも押さえて、戸波は熱っぽい眼差を送つた。

「どうも。ま、上がつてください
「でも……」

亜紀子は視線を戸波に送り、すぐに戻すと、かすかな笑みを浮かべた。

「お客様のようですから、きょうはここで……」

あわてて松岡に眼配せする。新聞記者らしい敏感さで、

松岡は何かを感じつたらしい。
「いや、僕は、もう用事が済みましたから失礼します。
どうか、ごゆっくり」

「あらすじ」
神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄(兵鉄)の公害をなくすと、毎朝新聞神戸支局の石津支局長がキャンペーン企画、取材をすすめていた。昭和四十五年のことだ。

事務への情熱を失い、バーナの女ユカとの情事におぼれていた戸波峻記者も十年のキャリアを買われて参加する。だままで醉客にからまれているところを助けてやった兵鉄秘書課の細川亜紀子と親しくなり、亜紀子は会社首脳の新聞社対策などをそのつと戸波に知らせて協力する。亜紀子の兄も記者だったが誤報事件のワナにかけられて自殺したのだ。

兵鉄の花房総務部長らは二人の関係をかぎつけ、亜紀子を工場勤務へ配置がえする。新聞社にも記事とりやめの申し入れをしたらしく、支局長や泉田次長らは本社へ喰問され、キャンペーンは掲載直前に中止と決まる。

傷心の戸波は、その夜、亜紀子がひそかにアパート暮らしをしていることを知り、疑惑を深める。真相のつかぬまま酒に溺れた戸波の帰宅待っていたのは亜紀子だった。戸波は激情の中で亜紀子をなからば暴力的に犯し、絶望のあまり退社願を提出。その夜、たまたま会った花房総務部長にひやかされ、殴ろうとして逆に路上に叩きつけられてしまう。

一方、同僚の八木沢ら若手記者たちは、本社へ直訴してでも記事の掲載を実現しようとしたが、居合わせた支局長らにとめられ、一応は不発に終わる。

急いで腰を上げると、あたふたと靴をはく。それでも眼に好奇のいろを精いっぱい浮かべながら松岡は出でていった。

男と女が残つた。

花束を枕元に置く。静かにすわる。じつとみつめる。
——女の動作は、まるで能狂言の所作をそのまま写しつたようにみえる。

「ありがとう」

「複雑な感情をこめて、視線を送る。

それが、どの程度、届いたのだろうか。女は全く別の

ことを口にした。

「会社の、花房総務部長の使いで参りました。」

「…………」

一瞬、耳を疑う。どういうことなのだ。見舞いは、亞紀子の意志ではないのか。

「ゆうべのことはお互い、なかつたことにしよう。そう伝えてくれ、ということでした」

「どちらかといふと、切口上である。

それが、男をいらだたせた。

「そんなことは、どうでもいい。君は、君の意志で、来ててくれたのと違うのか」

「それから、ケガの方は、どうか、お大事に。無理をなさらぬようにと伝えてくれと……」

表情を崩さずに、女がつづける。その白い頬に、心な

しか微笑が宿つているようにも見える。

戸波は、それを冷笑と受けとめた。

思えば亞紀子は、一昨日の夜、ここで、なかば暴力的に犯した女なのだ。いま、ぶざまな綿帯姿で横たわつている男に対し、軽蔑や冷笑で報いたとしても、決して不自然ではない。

「君は……君はまだ怒っているんやな、一昨日のこと」

物憂げに首を振つて、女がつぶやく。

「それも、なかつたことに、しましよう、ね」

(なかつたこと——か)

新聞記者であつたこと、公害キャンペーんに加わつた

こと……すべての過去を、風葬の國のなきがらのように棚ざらにするつもりである。

だが、この心の揺れようは、何と説明したらいいのだ

ろうか。

急に、亞紀子がすわり直した。

きちつと膝をそろえると、朗読調で話しかけてきた。

「私も、新しい生活に入りたい、と思つています。だから……」

だから、なかつたことにしようというのか。そして、新しい生活とは、何を意味するのか。

「とにかく、今月いっぱい、会社、やめます。これから

ることは、そのあとで、ゆっくり考えますわ」

「会社を、どうして……」

うろたえながら、辛うじて反問する。それに耳をかさずにはあつた。

「戸波さんのところで、公害のキヤンペーンをとうとうやつていただけなかつたこと。それだけが、心残りです。

もし、あれが実現していたら……」

そこまで一気にいようと、急に亞紀子は言葉を切つた。

切つたとしかいよいのないほど、それは唐突であつた。

「もし……記事になつてたら……」

どうするというのだ。そう問い合わせをして、戸波は

気づいた。

亞紀子の瞼が、ぬれているのだ。

もう一言でも続けていたら、セキを切つたように涙が噴き出すに違ひない。

必死にそれをこらえている、まるで幼女のような亞紀子の表情が大写しになつた。

ひらめくものがあった。

これは、やはり愛の告白というものであろう。

亞紀子は賭けていたに違ひない。かつて兄の勤めていた毎朝新聞が、兵庫製鉄の公害キャンペーんに取り組む

かどうかに。

もし実現していたら、おそらく彼女は、身も心も投げかけ

ていただろう、主

要スタッフの一人

である、戸波

記者に――。

そういう賭

けがあつたか

らこそ、危険

を惜しまなかつたの

だ。公私の間で板ば

さみになりながら、

一つの姿勢を貫き通

したのではなかろう

か。

「君を、裏切るような

結果になつて、本当に済

やく。」

その声が終わらぬうちに亜紀

子が体を投げかけてきた。ふと

んの上で横たわっている戸波に

激しく上半身を押しつけた。

肩が泣いている。

嗚咽が声になつて洩れてくる。

戸波は、暗然となつた。

だが悪いといえばいいのだろうか。

なにが、こんな結末を導き出したのだろうか。

傷跡のうずく頭で、思いをめぐらせる。還らぬ過去をたぐり寄せてみる。が、回答は出ない、

戸波は、暗然となつた。

それが悪いといえばいいのだろうか。

悔恨の渦の中で、低くつぶやく。

引き裂かれた二つの心が、一点に駆け寄つて火花を散らし、再び遠ざかってゆく。もう手の打ちようもないほど隔絶したところへ落ちこんでしまうのを、お互いに意識する。

急に、つっかけ下駄の音がした。

「ただいまア」

ドアが陽気にあいた。

ユカが戻ってきたのだ。

パケットが一本つき出している紙包み。そ

れに鉄砲ユリを一束、ささげるよう

に持つている。

「おそくなつて、ごめんななさい。あら、お客様

さんなの?」

初めて気付いたように、

亞紀子へ視線をやり、ニッ

と会釈する。

どうしても、出てこない。
そのうえ、告げなくてはならないことが、もう

う一つあつた。

「おれ、新聞社、辞めたよ」

だから、いすれにしても、もう

キャンペーンなどとは無縁の人間

なのだ。——重苦しい敗残者意識

をもて余しながら口にする。

一瞬、亞紀子の嗚咽が止まつた。
そつと顔を上げて、戸波の表情

をうかがう。またたきもせずに、みつ

める。

ドアが陽気にあいた。

ユカが戻ってきたのだ。

パケットが一本つき出している紙包み。そ

れに鉄砲ユリを一束、ささげるよう

に持つている。

「おそくなつて、ごめんななさい。あら、お客様

さんなの?」

初めて気付いたように、

亞紀子へ視線をやり、ニッ

と会釈する。



が、その表情に、いつもの、あの暖かさはない。

気まずい空気が流れ、よどんだ。

亞紀子は、ゆっくりとすわりなおすと、「細川です」と

小声で名乗った。

どう取りつくろつたらいいのだろうか——三人三様の戸惑いの中で、まずユカがおどけてみせる余裕を取り戻した。

「はじめまして、ユカちやんです。お手伝いさん志願に来てますねン」

それは、ホステス稼業で身についた、悲しい接客術のあらわれかもしれない。

戸波は、かすかに胸が痛んだ。ユカを哀れに思う。そして、いまユカがいなければ、とも思う。

男のエゴイズムが、困惑の渦で溺れそうになつてゆく。

ユカは、それでも手早く台所に立つた。お茶の支度でもするというのだろうか。

亞紀子は、視線を泳がせたあと、再び戸波に戻した。「なぜ会社をやめるの」「あのひとは誰なの」——瞳が、そう問いかけているようにもみえる。

戸波は、ひどい疲れを感じた。五体がバラバラになって、ふとんの中にのめりこんで行くような重苦しい疲れだつた。

(難破船みたいだな)

うずく頭で、ぼんやりと思う。台風の爪にひっかけられて沈んだ、難破船の破片に過ぎないおのれを思う。

ユカが近づいた。

運んで来たのは、お茶ではなかつた。粗末な、ありあわせの花瓶にいけられた三本の鉄砲ユリだつた。

「この辺が、いいかしら」

ひとりごとのようにいい、戸波に目で問い合わせながら、枕元に置く。そこで、あらためて亞紀子の花束に気づいたような声を上げた。

「まあ、こんなに立派なお花を、たくさん頂いて……どうも、すみません」

頭を下げてみせるユカに、亞紀子は会釈を返した。小さな火花が散つた。

「あら、これ、兵庫製鉄から?」

ユカが叫ぶ。花束についているカードの名前に氣付いたのだ。

「じゃ、あなた、兵庫の人なのね」

「え、ことずかつて参りましたので……」

「そう、兵鉄の人なの」

あらためて亞紀子を見ると、ユカは対決でもするようになり直した。そして、静かにいった。

「お願ひします。兵庫製鉄の方は、もう、どなたも、戸波さんに近付かないほしのです。……この人、いま、とても疲れています。だから、仕事のことは、一切きり離してほしいのです」

うまくいえなくて、もどかしい。そんな表情をみせながら、ユカはつづける。

「それに、この人、会社をやめるんです。もう辞表も出しています。いま一番この人に必要なのは、休養なのですから、お願ひします。そつとしておいて欲しい……」

表現は、うまくない。だが、拙いからこそ余計にユカの心情を見る想いである。

戸波の心中に、小さな感動めいたものが走つた。

「お手伝い志願のユカちやん」ではない。それは明らかに、戸波の身内の人間の発言であつた。

ある種の緊張感の中で、亞紀子が口を開いた。

「お邪魔しました。……この花束は置いて行きますから、どのようにでも処分してください」

ゆっくりと頭を下げる、長い髪を引き上げるようにして背中へ振つた。戸波と視線が合つた。だが、もう何も語りあうことはない。そんな気がした。

ユカは、まるでこの部屋の主婦のように、亞紀子を送つた。ドアのところに立つて、いつまでも亞紀子の後ろ姿に視線を残していた。

豪華な花の香りだけが部屋を泳いでいる。しかし、心

の中、ポツカリあいた風穴のように、花の香りもどこかむなし。

ユカが枕元へ戻ってきた。

まるで、職員室へ呼びつけられた小学生のように、お

びえ、緊張しきった表情のまま正座した。

「戸波さん、ごめんなさい。私、悪かったわ。どうして

あんなこと、いつしまったのかしら。でも、本当に、

ごめんなさい」

いまにも泣きべそをかきそうに頬がゆがんでいる。

「なんだか、私、事情も何もわからなくて、余計な

口きいたみたい。かんにんしてね」

戸波は、不意に胸が熱くなつた。

事情がわからないのではない。ユカは知つてゐるのだ。知つてゐるからこそ本能的に何かを感じとり、それを押さえきれずに口に出してしまつたのだ。

きちんと両膝の上にそろえたユカの両手にそつと添えてやる。

「いいのや。気にすることなんか、なにもないよ」「でも、わたし……」

半泣きのユカを、引き寄せる。崩折れてきた柔かい上半身を受けとめる。ふとんを隔てて抱きしめる。静かに髪を撫でてやる。

肩がふるえていた。

その涙は、決して悲しさからではあるまい。むしろ、ある喜びを秘めた涙かもしれない。

生暖かい情感が戸波をつづんだ。

ダメな男と、優しい女――。

この国式からは恐らく何も生まれてはこないだろう。

だけど、それでいい、と戸波は思う。この生暖かさに、とっぴ顎まで浸っていたいと思う。

「一緒に暮らそうか」

耳元に囁きかける。

「そうや。バーテンでも何でもいい。おれも仕事をみつ

けなきや

ユカが、一瞬のうちに泣きやんだ。

首に回した腕に力をこめてきた。

一週間が過ぎた。

十一月らしい六甲おろしの風が舞う朝、毎朝新聞神戸支局に三人の来訪者があつた。

中年に近い男二人に女が一人まじつてゐる。

うつそりと、猫背をいつそく曲げるようにして、先頭の男が受付の少年に声をかけた。

「戸波という記者さん、いるかね」

まるで『地獄の使者』みたいな印象を押しつけられて少年は戸惑つた。

「あのう、いま、おりませんが……。どちらさんでしょ

う」

猫背は、陽焼けした頬を硬くすると、二、三秒、考えてから口を開いた。

「わし、金原というもんやが……。^{じか}直接に会うて、話したいことがあるんや」

「だれか、代りのものではいけませんか」

「そうやのう」

男は、連れの二人に視線を送り、軽く肯きあつた。

「それじや、支局長か誰か、とにかく責任者に会わせてもらおうか」

「支局長に？」

「ああ、兵庫製鉄のことについてじや、というてくれた

らええ」

男の瞳が、鈍く、無気味に光つた。

(つづく)

talk and talk



<神戸っ子愛読者サロン>

★神戸っ子のみなさんお元気?

2日 PM 5:00にデュッセルドル

ブにつき、3日には家がきまりました。2部屋で8帖と6帖バス・トイレ・冷蔵庫etc家具つきです。デュセルのまちはすごくいいところです。公園はものすごく大きくて、街の中にいっぱいあります。リスが公園の中を走っていたり、鳥がほんとにたくさんいます。

近くの庭つきの家なんかにはうさぎもでてきたりして家の窓には（だいたいの家）花があります。

旧市街は毎日、昼間から若い連中がビールをのみながらたむろしています。道は石でなかなかいい街です。僕達も昼間からビール飲んでます。

★毎月、神戸っ子を楽しみにしています。9月のはじめに神戸を訪れました。以前、西宮に住んでいた関係で、どちらかといえは新大阪駅を利用する事が多かったのですが、新神戸駅と、まわりの緑が実に神戸らしいと感じるとともに、またまた、神戸の良さ、美しさに新たに触れたようです。

”神戸っ子”は、そこで生れた

植松奎二・和子▽

△デュッセルドルフ

★造型作家の植松奎二さん夫妻（第2回神戸市文化奨励賞受賞者）は、9月1日に日本を旅立ち、さっそくのお便り。頑張ってね！

★世界中に、日本中に、美しい町はたくさんあるけど、女性が楽しめる町となると、これはもう我々が神戸に限ります。その神戸市脈ともいえる「神戸っ子」は、私が敬愛する先輩のようなものです。

食べもの、人間、文化、すべてにファッショナ化している神戸っ子ってステキです。私はへんな江戸っ子だとよくいわれるけど、私がへんなんじやないと思っているのです。

今月はまだ、神戸っ子がとどかない。編集者諸君、夏バテかな。では、ちらから、神戸っ子の皆さんに、毎度ご苦労様と、初秋お見舞い申しあげます。

それにしても、私も、待たれる身になつてみたいホントに！

△東京・石橋幸子▽
★九月号遅くなつてスンマセンです。秋となり、風さわやかな神戸の街でハリキッてますので、十・十一月となるべくお早くおとづけします。

△編集部▽

近々の庭つきの家なんかにはうさぎもでてきたりして家の窓には（だいたいの家）花があります。

★毎月、神戸っ子を楽しみにしています。9月のはじめに神戸を訪れました。以前、西宮に住んでいた関係で、どちらかといえは新大阪駅を利用する事が多かったのですが、新神戸駅と、まわりの緑が実に神戸らしいと感じるとともに、またまた、神戸の良さ、美しさに新たに触れたようです。

”神戸っ子”は、そこで生れた

神戸の匂いにつつまれた小さな美しいタウン誌。神戸の停車駅。私も設案内所（書）。

以前よりも”神戸っ子”到着が遅くなっていますね。どうなつているんですか。

△坂出市・明石和章▽

★お便りありがとうございます！新神戸駅へでられるのなら、一時間早く出て布引の流と徳光院に立寄らせてはいかが？またまた、ファンになれますよ。到着が遅れたらカシニです。姉妹誌だった「オール関西」の休刊などがありましてバタバタ。早く新幹線（？）なみにと努力いたします。

△編集部▽

★暑暑がきびしくて、秋が来ないのかなーと心配になるくらいですが、コオロギの鳴き声が聞えますので秋だなーと思つています。”神戸っ子”9月号ありがとうございました。『結婚特集』“男の女のいろいろと勉強になりました。”この十年何がどないに変ったか。“私のような古い考えが流れている人間には、お二人の先生の対談は、いろいろと勉強になりました。

”日本の男よ、もっと父性愛に目覚めよ”本当に大事なことと思

ます。ありがとうございました。

△宝塚市・丸本明子▽

★お見がすんで、やっと秋めいて来ました。”民心と秋の空”も”心と秋の空”と変えなくてはならない世の中になつて來たよう”。でもコオロギや鈴虫たちは相も変わらずい声で鳴いていますね。

△編集部▽

★読者の皆さまへ
本誌に対し、また執筆者の方々へのお便りなどぜひどうぞ。

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭
神戸市葺合区塚塚通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれない 三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かっぱう吉 本
神戸市生田区加納町3丁目95-1
(ニュージャパン別館前) TEL 241-3450

鍋もの・おむすび 悟味西
お茶漬・かはな 三宮市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび ふるさと里
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼たちはばな 三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL 331-7770

カニ料理 婆娑羅(ばさら)
神戸市生田区北長狭通1丁目18
三宮阪急西口北側レインボーブラザ1・2F
TEL 321-6363

天プラハウス 美術喫茶 瀬戸
神戸市生田区山本通3丁目27の9
瀬戸ビル1F TEL 221-6548

★西洋料理

レストラン アボロン
神戸市葺合区八幡通5丁目6 TEL 251-3231

レストラン 鹿皮〈あらかわ〉
神戸市生田区中山手2-9 TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通二丁目98/99 TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34 TEL 331-7168

レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130 TEL 242-1234

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷
三宮フラワーロード市役所前 TEL 251-2109

鉄板グリル きやんどう
神戸市生田区北長狭通2-22 TEL 331-1183

レストラン フィッシュヤーマンズポート
神戸港第4突堤ポートターミナル
TEL 331-0301

居酒屋 フラメンコショー 口ス・ヒターノス
生田区下山手通3丁目22
下山手セントラルハイツ TEL 391-5431

レストラン ムーンライト
三宮・生田新道 TEL 331-9554
グリル・鉄板焼 BARBECUE & STEAK
TEL 331-2509

月六 段
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

レストラン スイスシャレー
神戸市生田区北野町3丁目48アニルドマンション1F
TEL 221-4343

フランス料理 ピストロデリヨン
神戸市生田区山本通2丁目40-1
TEL 221-2727

ピッタハウス ピノツキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3 TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店
兵合区琴緒町5丁目1-7 西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス グリル青山
神戸市生田区中山手通2丁目112-2(トアロード) TEL 391-4858

レストラン フック神戸店
神戸市生田区栄町通2丁目24 TEL 321-3453

レストラン 元町フルーツホール
元町1番街 TEL 331-1987

ピザ・パブ ピザ・パテオ
神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)
TEL 331-9378

ナイトラン 火の鳥
神戸市生田区中山手通1丁目27
TEL 242-1330

スカンディナビア料理 レ世界の民族音楽の店
ゴックスタッド
生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 ティファーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4/12 パールコーゴラスビル1F
TEL 242-0043

ステーキ&ドリンク 黒牛
神戸市生田区中山手通2丁目39の36
TEL 241-3739

ドライブ風 音楽レストラン
コーベ・ローレライ
生田区北長狭通6丁目39
TEL 371-0086

★喫茶 宮水のコーヒー
にしむら珈琲店
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669
北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880

喫茶 ガーデニア
神戸市生田区東町113-1 天神ビル1F
TEL 321-5114

珈琲モーツアルト
神戸市生田区山本通2丁目98グラウンドマンション1F
TEL 241-3961

ティー&スナック サボテン
神戸市生田区中山手通2丁目
(神戸女子短大前) TEL 241-7060

ティー&スナック エボック
神戸市生田区元町通3丁目(浜側)
TEL 331-3694

club クラブ 千
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

club 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

club 小万
神戸市生田区東門筋中山手3F
TEL 391-0638・4386

club さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

club なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

club 蘿^フき
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

club ぶーげん
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8939

club Moon Light
BAR TEL 331-0886・391-2696
Club TEL 331-0157

クラブ るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK
ドリンク & レストラン
ベルビュードール
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F
TEL 321-5677

スタンド かてな
生田区中山手通1丁目90 英健ビル1F
TEL 331-1316

洋酒ハウス 雜貨屋
生田区下山手通2丁目8の6
(生田新道相撲タクシー横土) TEL 321-0260

スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

スナック カクテル
姫
神戸市生田区中山手通1丁目18 TEL 221-1950

カクテルラウンジ サヴォイ
高架山側 テキの店北 TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス
神戸市生田区下山手通1丁目32 PHONE 078-241-7320

スナック ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目 TEL 391-4582

居酒屋 ボルドー
生田新道浜側中央KCBビルB1F TEL 331-3575

Wine and something 珍地理屋
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
大和ナイトブラザ1F TEL 242-0288

サロン 神戸時代
生田区中山手通1丁目28
シャトウコトブキビル TEL 242-3567

ナイトイン おしゃれ貴族
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
大和ナイトブラザB1 TEL 242-1925

スタンド くじ
生田区中山手通1丁目72
TEL 331-6985

キヤンティ
本店洋酒の店
神戸市生田区北長狭通2-3
tel 391-3060・391-3010
北店スープとパンの店
神戸市生田区下山手通3-8/9
tel 331-3661

DRINK SNACK スネカリツ子
神戸市生田区下山手通2丁目
水堀ビルB1 TEL 391-8708

music spot サントノーレ
トアロード店 生田区下山手通2丁目トア・ロード
tel 391-3822
北野店 生田区中山手通1丁目24-7
ダイワナイトブラザ6F tel 221-3886

素香洞でつさん
神戸市生田区北長狭通1丁目258
TEL 331-6778

STAND マシュケナダ
生田区下山手通2丁目ちいなタウン地下
TEL 331-5587

スナック GASTRO
神戸市生田区中山手通3-20
トーアマンション TEL 231-0723

チーズ&パブハウス バスチャーリントン
生田区北長狭通2丁目(トアロード)
TEL 332-1125

スナック エドワーズ俱楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトローズビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300

サロン アルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトブラザ2F-B TEL (231)3300

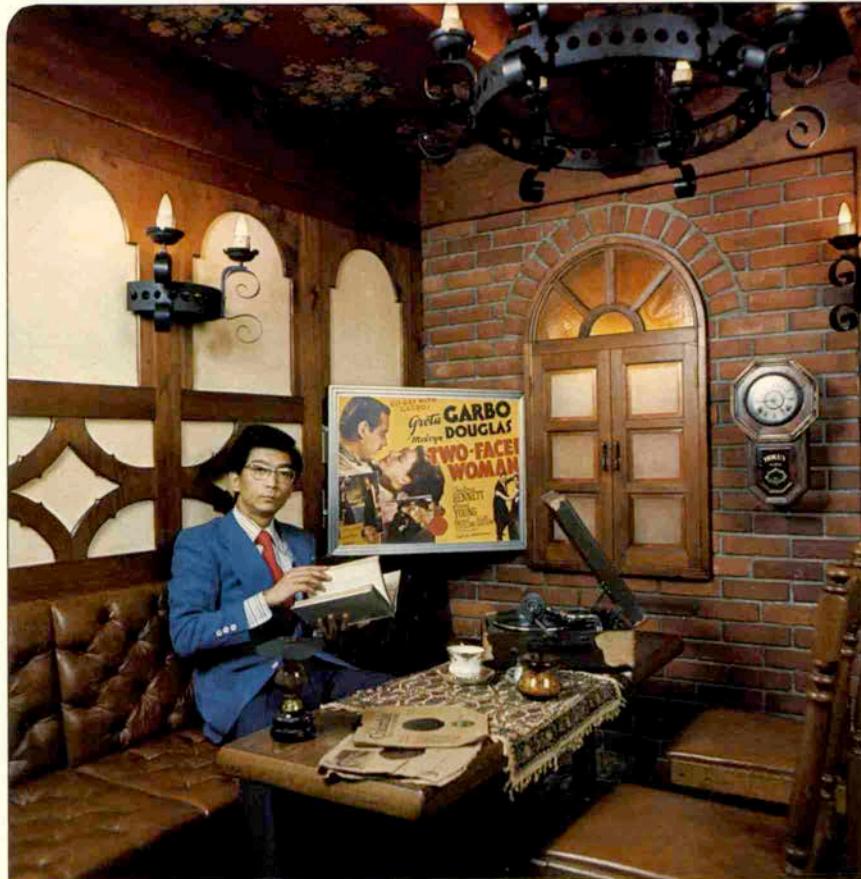
CAFE WHISKY 音楽の家"ETエトワTOI
神戸市生田区三宮町3丁目 三宮センター街西入口
スカイアビル3F TEL 332-1755

スナック 山莊
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

スナック 紋
神戸市生田区北長狭通1丁目141-1 レンガ筋
TEL 331-8858

スナック 興志務樂亭
神戸市生田区中山手通2丁目60パールライフB1
TEL 242-1977

S N A C K L & M 生田区北長狭通1丁目25
生田新道ビルB1 TEL 321-3070



baL^on
antique
series

33 蓄音器

中川 清さん

(大丸神戸店 宣伝部)

「ある年代の過去に自分を置いてみる。そしてその中に埋まっていくことによって、今の自分がよりわかるような気がします」という彼のコレクションは、今、確実にリズムを刻んでいくジャズでいう4ビートの時代である。流れる歴史の、その周期を探り、すべての動きとの因果関係を知ることで、一歩先あるいはずっと長い将来を予測したい。そんなために過去の時代を順に追いつづける。

センター街店にて
カメラ / 米田定蔵

★英國風喫茶・レストラン バロン

三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄

なぜか坂道をあるきたくなる秋。

ふとめぐり逢えるおしゃれな品々。

嬉しさを胸に、またあるきたくなるサンプラザ&センタープラザ。

秋の買物・散歩

Shopping in fall.

★事務と暮しを豊かにする

ナガサワ

文具センター

センターープラザ1F ☎ 333333

さんちかタウン店 391／4712

24時間オーブンのウインドウディスプレイは、
趣味をこらしてとても楽しいのです。また神戸らしく舶来
文具品を集めているので、思いがけない品選びができるユニーク。



ピンク

センターープラザ店 センタープラザ2F

☎ 332-28668

スタイルバレス店 スタイルバレス1F

☎ 32-11234

ジバンシイのスカーフ・香水・ベルト・傘など
をコレクションしたコーナーがパリの香り
をのせてステキです。もちろん釦類は、舶來、国産を問わず豊富な品ぞろえ。

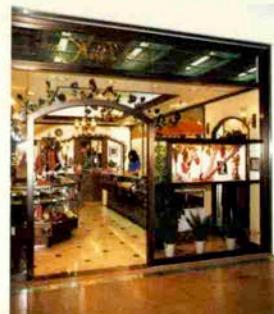


木瓜

★お食事処

サンプラザ地下 ☎ 391-2427

甲南漬で有名な高鳴酒類食品販売が
手がけているお店で、とっても家庭的な雰囲気が人気です。
おら定食など季節の一品料理が、秋の
たべものシーズンにもよく、おみやげ
に甲南漬を手にされるのもいいでしょう。



マ ル ダ イ

三宮・京町筋 332 — 1-356

鉗はシルエットの最後の仕上げ。今秋は天然素材のものが多くなり、貝・木などが、金属との組合せてできました。茶や紺、黒と色ものと金属の組合せも定着しています。アクセサリーにも木彫や、オニックス+ゴルドなどがフレッシュ。



★レディス ウェア

セントラーブラザ 1F ☎ 332-2856

ヤングに人気のあるデイトは、スカートがよく揃っていて、色は、黒・茶の無地もので、ウールギャバ、フレア・タイトのミディ丈が秋の傾向、ブラウスはテーラーな感じで、ジーンズもあるヨ。

ブチディイト



基色の
フレアースカートは
とってもシャープス

大和屋シャツ

セントラーブラザ 1F ☎ 331-6956



国際会館店／国際会館 1F
紳士シャツオーダー専門 251-0220
日本のシャツはじめ物語の歴史を持つ本格派の大和屋シャツが、ネクタイ(フランス・イタリ―・西陣織)とブレタシャツ(アンダーワン・英/スイス・ハウザマン/フェルノ・伊)のお店を九月十一日にOPENしました。



装苑

★パリの服飾大使館

セントラーブラザ 2F
☎ 331-2038
丸前 ☎ 331-7550

白を基調にした大理石と透明なガラスの装い。ゴージャスなじゅうたんの「装苑」は、コウベのハイセンスをいかしたオリジナルファッショントリスチャンドイオールの全商品が揃っています。本格派のコーディネイトを。



秋。ロマンの夜。

なにげない語らい 呲味されたメニュー おしゃれなスペース。



神戸市生田区中山手1丁目24ノ7
TEL 078(241)0980・(242)1925
大和ナイトプラザBフ
PM 6:00～PM12:00



秋のちくせんに常夏の島からお客様——



小集会、誕生祝などのパーティーにご利用下さい

ちくせんミュージックタイム
神戸のター坊による演歌熱唱 8:00pm~0:00am

●タヒチからのお客さまはセレスティナ・ドミニゴさん(左)とタイエ・マヌイヤさん



スナックちくせん

生田区中山手通1丁目85(東門筋)中島ビル4F ☎331-3131
近藤正実・岩本文夫



PUB & RESTAURANT

Up
LANDS

生田区加納町3丁目

1-34

☎ 241-8271

KOBE DRINKING GUIDE

牛山崎
ステーキルレウス

生田区中山手通1丁目

前川ビル1F

☎ 391-3335



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32

WOODHOUSE

山内ビル

☎ 241-7320

SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57

☎ 242-0100

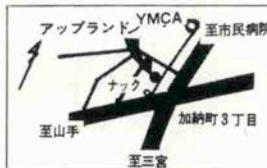


★ラグビーといえば英國ウェールズ。その強豪ぶりは先日のテレビでも感心させられました。そのウェールズでレフトウイングとして活躍していたのが“アップランド”的D.A.トマスさん。彼は自身自負するバブ野郎ですが、本場の気安いバブの雰囲気とステキなミュージック(もちろんライブ)の流れる店、お客さまが大いに楽しく飲んだりしゃべったりできる店をということで“アップランド”を開きました。神戸っ子のセンスにピッタリのシャレたバブ&レストラン“アップランド”へぜひお立ち寄り下さい。

☆ランチタイム(11:00A.M.~2:00P.M.) ランチ¥400 コーヒー、紅茶各¥200 ☆ローストビーフ¥2,700 シェバーズパイ¥850 ステーキ&キドニーパイ¥600 コーニッシュバースティ(ミートパイ)

¥600 フィッシュ&チップス¥500 J&B、OLD、G&G各¥400 ビール¥300

平日11:00A.M.~3:00A.M. 日曜祭日6:00P.M.~0:00A.M. 無休



アップランド



ヤマサキ

KOBE DRINKING GUIDE

ウッドハウス



サテンドール



★日増しに秋の深まる季節になりました。さわやかな秋はまたステーキのおいしい季節です。ステーキハウス“山崎”へいらっしゃいませんか。最上級の神戸肉と新鮮な生野菜をご賞味下さい。きっとご満足いただけるでしょう。また、落ち着いた雰囲気、それに、各種のワインも揃っていますので、ゆっくりとお食事を楽しんでいただけます。30名ほどのパーティーの予約も承っています。家族づれ、友達同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ¥5,000 サーロインステーキ¥3,000 テンダーロインステーキ¥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き。

ビール¥300 ボトル(DLD)¥5,000 ボトル(ホワイトホース)、ボトル(カディサーク)各¥7,000

5:00P.M.~1:00A.M. 日曜日休み

★ウッドハウス・お店の人紹介第2弾

待ってましたこの人、本名長谷川文弘、26歳、通称ハセ、マチャアキ、スキニーETC. 神戸の若者が彼のことを知らない方もぐりといつても過言ではない程有名人。あの細い身体で人一倍あるパイタリティー、あらゆる層の女性に人気のある彼はにくめない程いい男である。ニヤッと笑って女を口説かせれば右に出る者なし。一度会っても10年來の友達になれるほど気さくな彼は“ウッドハウス”的名物男。ナニ……女の話、それなら長谷川君にきいてみな。いい答が返ってくるよ。家に帰れば幼稚園に通っている一人息子のまさき君のよきパパでもあります。

☆営業時間のお知らせ。平日／5:00P.M.~2:00A.M. 日曜／6:00P.M.~0:00A.M. 年中無休

ビール(小)¥300 水割り(オールド)¥400 フィズ¥500 おつまみ¥100 スパゲティ¥400 ピラフ¥400 ほか。

★秋の夜、ジャズに酔い、酒に酔う。“サテンドール”では火曜を除く毎日(7:30P.M.~11:30P.M.)宮原透トリオが熱のこもったプレイをきかせています。また、月に一度はお客様のリクエストによって一流プレーヤーのショータイム(予約制)を企画しています。最近ではピアニスト菅野邦彦が来店。9時30分までの演奏予定が彼自身のリにて何と零時過ぎまで続演、“サテンドール”ならではの熱狂的なジャズシーンがくり広げられました。今後も本田竹曠、山本剛などのショータイムを予定しています。お好きなプレーヤーをどんどんリクエストして下さい。なお、“サテンドール”では20~50名様のパーティーを承っております。お一人様3,500円(税込)で食事つき、フリードリンクです。

☆ビーフシチュー¥1,200 スモーカーサーモン¥1,000 エスカルゴ¥1,000 チキンバスケット¥600 オードブル¥500

6:00P.M.~4:00A.M.